◇　全地連「技術フォーラム’92」参加報告　◇

技術委員会

さる９月10～11日、九州福岡で「技術フォーラム’92」が開催され、これに出席する機会を協会よりいただき参加してきました。今回の開催で東京（関東地質調査業協会）、大阪（関西地質調査業協会）から数えて通算第三回目となります。

発表論文は年々増えて今回は発表数を制限したとのことであった。第一回目からの論文の参加数は次のように推移して二回目から盛況になっていることが理解できる。

第一回目	東京	参加論文	58	編
第二回目	大阪	参加論文	100	編
今回第三回目	九州　福岡	参加論文	98	編
	ポスター展示発表		8	編

今回の、キャッチフレーズは「Back to the Field」（現場に帰ろう）今一度現場を考え直してはという意味も込めたそうで、これにふさわしい現場での工夫などの内容の論文も幾つか見かけた。

発表論文の詳細は、論文集に譲りフォーラムの運営内容等について報告します。

発表会の内容

発表会の日程は次のようになっていた。

「技術フォーラム’92」プログラム　　おいて福岡サンパレス

第一日　９月10日

10：30～12：10　技術発表会　Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ　各セッションで７編づつ

13：30～13：40　フォーラム開催挨拶　深田淳夫（全地連技術委員会委員長）

13：40～15：00　特別講演会１　「吉野ヶ里遺跡と邪馬台国」

佐賀県教育委員会文化財課　　高島忠平　氏

15：00～17：00　ボーリングマシン展示会　　屋外会場

（平行して「標準貫入試験の自動化」に関する全地連ボーリング研究会報告」）

17：00～19：00　懇親会（パレスルームにおいて）

第二日　9月11日

9：00～12：10　技術発表会　A，B，C，D　各セッションで11～12編づつ

13：00～15：00　特別講演会２　「雲仙普賢岳の噴火予知」太田一也

（九州大学教授　島原地震観測所所長）

15：00～15：50　ポスター発表　　ロビー

16：00～17：30　技術発表会　A，B，C，D　各セッションで５～６編づつ

第一日目

第一日目は、台風の影響のためかやや曇空ながらさすが南国と蒸し暑かったが参加者の熱気のせいとも感じた。

午前中の論文発表は28編と少なくし、午後から開催挨拶、メインの特別講演、全地連ボーリング研究会報告とメーカー賛助のボーリングマシンの展示と充実した内容であった。この中で印象に残ったものを簡単に紹介する。

「吉野ヶ里遺跡と邪馬台国」　佐賀県教育委員会文化財課　　高嶋忠平　氏

魏志倭人伝に記されている２～３世紀の日本の状況を遺跡の上で具体的な形で我々に見せてくれた。弥生時代後期の環濠集落跡（濠に囲まれた集落）と同時代の巨大な墳丘墓に代表される遺跡の発掘調査の経過など興味深い講演であった。

吉野ヶ里遺跡即、邪馬台国という訳にもいかないが当時の「クニ」の中核的集落であったことは間違いないとして、講演者は女王卑弥呼の邪馬台国であって欲しいと言うロマンを持っているようであった。

ボーリングマシン、自動貫入試験機の展示

近くの駐車場を借りてボーリングマシンメーカーによる最新のボーリングマシン、コアチューブ等のツール類の展示が行われた。この中で注目したのは、全地連がボーリングメーカーに委託して試作した貫入試験の自動落下装置の展示である。各社独自に油圧、電磁石等を用いてモンケンを自由落下させる装置を展示していた。油圧の場合は、装置自体が大きくなるものなどもあり、ハンドフィードの機械に装置できない、新たに電源も必要となる等まだ改良の余地がありそうであった。

自動落下装置と記録機は分離しているので別々の購入になると思われるが、完成後の販

売価格の設定が難しいと思われる。普及させるには安価且つ、ある程度の制度化も必要ではないだろうか？記録機はN値の内訳、グラフ等にして出力できるので、現在市販されている柱状図の作成ソフトでこのデータを取り込めるようにする必要性を感じた。

第二日目

前夜の懇親会の酔いもさめるようなさわやかな天気のもとで、午前と午後に分かれて計70編と技術論文の大半が発表された。

この日の特別講演は九州大学教授、島原地震観測所所長の太田一也先生による「雲仙普賢岳の噴火予知」である。

現在までの一連の火山活動は、1989年11月に雲仙岳西麓の橘湾で発生した群発地震に端を発し、震源は波状的に東進した。1990年７月、主峰普賢岳に達し、同年11月17日198年ぶりに噴火を開始し、活動は周知のように現在も続いている。講演前日から活動が活発になり、連絡があればすぐに戻れるような状況での講演でした。

噴火から現在迄の過程をスライドを用いて解説していただき、自然のエネルギーの偉大さをあらためて見直した次第である。

太田教授もかつては、石炭（炭坑屋）から地質調査の創世期にいた時があるので今回のフォーラムに来られてなつかしい思いがする。

当時に比べて今は、コンピューター等を駆使しており昔の手回し計算機等を使用していた頃に比べ、色々進歩して隔世の感がすると感想を述べられた。

ポスター発表

ポスター発表は次のような分野で８編展示された。

海上の足場関係	２編
検層関係	２編
物理探査関係	１編
三成分コーン	１編
普賢岳空中写真での地形	１編
地すべり関係	１編

これらの展示は、会場のロビーで行われたが、かなり余裕のある広さにも関わらず人垣が出来てなかなか前が見えない状況であった。ビデオ、写真、図表及び模型などで見やす

くなかなかの評価であった。

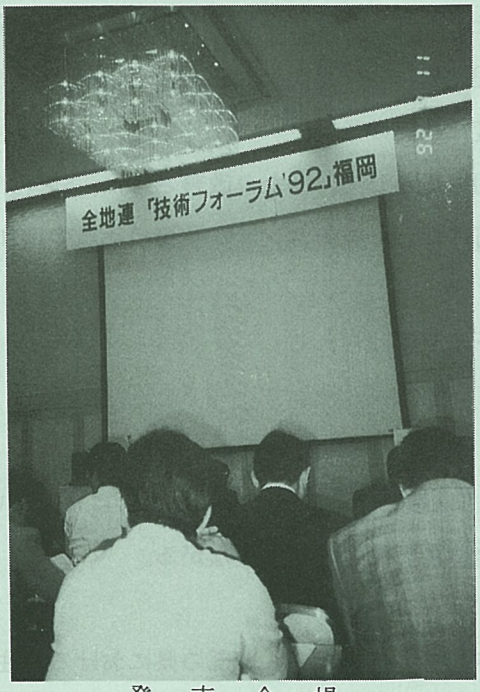
会場関係の感想

東北での開催も今後あると思われるので、会場について感じたことを挙げておく。

会場は福岡サンパレスという所で博多埠頭に面し展望塔に上がれば博多港が見渡せる場所である。この会場は、結婚式場と各種会議等が複数で開催できる広さと設備を持っている。

セッションは4つに分かれ、A，Bを大きな講演会場（パレスルーム）を二つに区切って（区切ってもかなり広い）C，Dは50～60人程度は入れる会議室で行われた。いずれの会場も盛況で少し遅れると席が不足し、後ろで立って聞いている人もいた。

来年は、東京で開催されることが決まり、再来年（平成6年度）あたりは東北で開催ということもあり得るので前述のような規模の会場、ビジネスクラスのホテルなど確保など準備は大変だとおもいました。



発　表　会　場